

ラグビー選手のための「意識と心がけ指標」と競技水準との関連

Association between competition level and “awareness and attitude index” for rugby football player

大石徹¹⁾, 中野恵介²⁾, 山本巧³⁾, 赤間高雄⁴⁾

¹⁾ 帝京科学大学医療科学部

²⁾ ファンクショナル・コンディション・ボード

³⁾ 防衛大学校

⁴⁾ 早稲田大学スポーツ科学学術院

Toru Oishi¹⁾, Keisuke Nakano²⁾, Takumi Yamamoto³⁾, Takao Akama⁴⁾

¹⁾ Faculty of Medical Sciences, Teikyo University of Science

²⁾ Functional Condition Board

³⁾ National Defense Academy

⁴⁾ Faculty of Sport Sciences, Waseda University

キーワード: コンディショニング, 生活行動, チームマネジメント

Key words: conditioning, daily activities, team management

【抄録】

競技外における競技に向けた日常の意識と心がけを指標化したラグビー選手の「意識と心がけ指標」の有用性を先行研究より競技力が下位のチームにおいて検証し, 新たに重回帰モデルを用いて検討することを目的とした.

対象は同一チームに所属する選手 65 名で, 指導者が主観的に判断した競技水準 (4 グループ) とラグビー選手の「意識と心がけ指標」の回答結果との関係を分散分析で検討した. 同指標の 5 つの下位指標のうち 4 つ「ラグビー力」, 「努力」, 「自律と判断」, 「回復力」においては先行研究と同様に競技水準が上位のグループほど各指標の平均値が有意に高かった. 下位指標 5 「興味と好奇心」は選手の競技水準を反映せず, 先行研究とは対象の特性が異なるためと考えられた.

また, 競技水準に応じたグループを従属変数, ラグビー選手の「意識と心がけ指標」の 5 つの下位指標を独立変数とし, 重回帰分析で検討した結果, 重回帰モデルの関連が確認され, 競技に向けた日常の意識と心がけから選手の競技水準を予測しうることが示唆された.

スポーツ科学研究, 13, 1-11, 2016 年, 受付日: 2015 年 8 月 9 日, 受理日: 2016 年 1 月 20 日

連絡先: 大石徹 〒120-0045 東京都足立区千住桜木 2-2-1 帝京科学大学

千住キャンパス 5 号館 53-15 研究室 Tel: 03-6910-1010 E-mail: ooishi@ntu.ac.jp